

薄暮時における 消灯事故の発生要因に関する分析

京都大学 工学部 地球工学科 土木工学コース
澤田昂志

論文要旨

交通事故は、人命を奪い、構造物を毀損し、渋滞を発生させるなど、我々の社会に様々な被害をもたらしている。交通事故は全国で、2020年時点でも年間30万件以上発生している非常に大きな社会問題であり、解決しなければならない重大な事象である。

政府は交通事故の発生しやすい時間帯として、薄暮時間帯（日没の前後1時間）を挙げており、早めのヘッドライトの点灯などを呼び掛けている。そこで本研究では、薄暮時における消灯事故の発生要因を分析することとした。薄暮時間帯において、人は暗くなったと感じた時に自動車や自転車のヘッドライトを点灯させると考えられる。しかし明るさの指標である日照時間と消灯事故との関係は明らかにされていない。

本研究では、事故データを基にした、事故車両における消灯の要因を分析し、日照時間との有意な関係が示された。加えて、日照時間と消灯事故発生との関係を分析したが、有意な関係は得られなかった。

この結果から、交通事故発生前の日照時間が長いほど消灯事故の割合が高くなることが示された一方で、日照時間と消灯事故の発生しやすさの関係が示されなかったのは、日照時間が短く、つまり暗くて視環境が悪いほうが、事故自体が発生しやすいためである可能性が考えられる。